

博物館だより

No.3

平成18年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

企画展

みやこの考古学

7月9日(日)まで

現在、当館では新生「みやこ町歴史民俗博物館」としては第1回目となる企画展「みやこの考古学」を開催しています。

本年3月に誕生した「みやこ町」は文化遺産に恵まれた町です。町内には国指定文化財5件

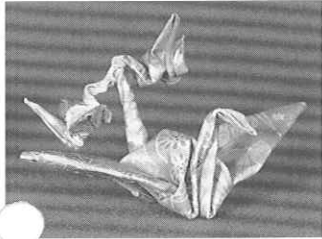
(綾塚古墳・橋塚古墳・御所ヶ谷神籠石・豊前国分寺跡・永沼家住宅)、国登録文化財2件(仲哀隧道・石坂トンネル)、県指定文化財19件(扇八幡古墳・小笠原文庫・生立八幡神社山笠等)と、京築地方でも有数

ミニ企画展

ORIGAMI (折り紙) 展

— 伝統と幾何学の世界 —

7月25日(火)～8月27日(日)



▲つなぎ千羽鶴「昔男」
(『秘伝千羽鶴折形』より)

来る7月25日からミニ企画展「ORIGAMI (折り紙) 展」を開催致します。折り紙の起源については諸説ありますが、歴史や起源に関係なく、折り紙を芸術の域にまで高めたのは日本人だと言われて

の内容を誇っています。

今回の企画展では、町内の遺跡から出土した遺物約200点を展示しています。新しい町の姿を、豊富な文化財から探ってみませんか？ ぜひ、ご来館ください。

■開催期間

平成18年7月9日(日)まで

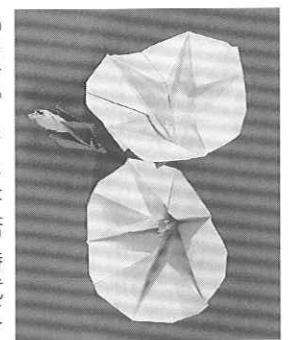
■開催場所

みやこ町歴史民俗博物館 展示室

■観覧料

大人 200円

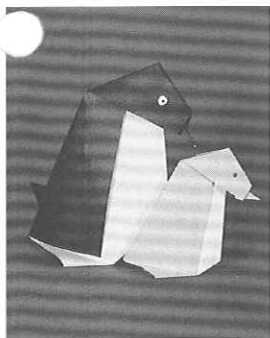
高校生以下100円



▲朝顔

います。とくに江戸時代に入ってから、遊戯としての折り紙が広く普及する一方、寛政9年(1797)には『秘伝千羽鶴折形』という、世界最古の折り紙テキストが刊行されるなど、日本人の折り紙は、遊びを越えたものにまで進化しました。明治時代になると、西洋の折り紙とは学校の教育、とくに女学校の作法教科に取り入れられるなど、折り紙はついに「教養」にまで高められたのです。

今回のミニ企画展では、『秘伝千羽鶴折形』掲載の「つなぎ千羽鶴」や、ヨーロッパ発祥の幾何学的な模様折り、アニメキャラクターなど、約300点の折り紙作品を展示します。また、来館者の方で希望する方には折



▲ペンギンの親子

り鶴を作っていただき(無料)、千羽鶴に仕上げ、8月中に広島・平和記念公園に献納したいと思っています。

ぜひ、ご来館ください。

■開催期間

平成18年7月25日(火)

～8月27日(日)

■開催場所

みやこ町歴史民俗博物館展示室

■観覧料

ミニ企画展のみ観覧の方は無料。常設展示は有料です。

博物館友の会 バスハイク参加者募集

博物館友の会では、次のとおりバスハイクを実施します。参加希望の方はお早めにお申し込みください。

■実施日

平成18年7月22日(土)

■内容

太宰府市の九州国立博物館および福岡市博物館特別展「吉村作治の早大エジプト発掘40年」を観覧します。

■定員

35名

※博物館内の見学ですので、暑い場所へは行きません。

※殆ど戸外を歩くことはありません。

■参加費 2500円

■申し込み先 博物館まで電話にてお申し込みください。(0930-466666)。

※博物館友の会の会員でない方は、入会後に申し込みください。

新しいふるさとの魅力を見つけてみませんか？

「お宝」探しのテーマとキーワード

Vol.3

「お宝」探しのテーマとキーワード

○テーマ

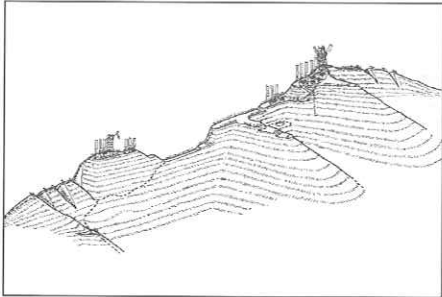
今回取り上げるのは「乱世の男たちの拠点」山城（やまじろ＝中世城館）です。

○キーワード・参考データ

*山城：文字どおり山に築かれた城をいい、古くは飛鳥時代に築かれたものがあります。中世（鎌倉～戦国時代）に大流行し全国各地に大字単位で築かれたためこの時代の代名詞ともなっていますが、城の一般的イメージである「高石垣に白亜の天守閣」を誇る江戸時代のお城とはだいぶ趣が異なります。即ち曲輪・堀切・土塁などからなる土作りの要塞といった観があるうえ建物は小屋や矢倉程度でまさに「土」から「成」る戦闘施設です。

なお、山城は戦乱時の施設で、城主らはふだん山麓の館に住んだことからこれとセットで（中世）城館遺跡と呼ぶことが一般化しています。

*山城の防御施設：曲輪＝山の尾根を削って造成した陣地。堀切＝尾根線を垂直に掘り割った溝。土塁＝陣地を囲う土手。



山城＝中世城館（上図：イメージ元馬ヶ岳城）と近世の城（下図：小倉城）



○勝山地区（障子ヶ岳城）

台形の山容に特徴ある凸凹を持つ障子ヶ岳は勝山地区のシンボルとして有名です。この山上には「障子ヶ岳（御）城」「牙ヶ城」と呼ばれる山城が築かれ、山麓や田川・京都に行き交う人々ににらみをきかせていました。古記録によればこの山上に城が築かれたのは建武三（一三三六）年、足利尊氏の一族・足利基氏が築いたとされますが、このことの真偽についてはいまひとつ確証が得られていません。それでも城の曲輪が尾根に沿って一列に並ぶという特徴ある姿から、形態の上からは、そのころの築城と考えてよいという専門家の意見も聞かれます。

その後この城は山口の大名・大内氏の家臣たちが入れ替わりに城番を務め、最終的には天正年間まで存続した「息の長い山城」であったことが知られますが、山頂からの田川・京都の雄大な眺めを見たとき、そのことの原因が分るような気がしてきます。



▲堀切から馬場・二の丸・本丸（最高所）を望む

○犀川地区（馬ヶ岳城）



▲京都平野に突き出た半島状の山塊・馬ヶ岳

「ふたこぶラクダ」形の特徴ある山容と安産の神様として有名な二兒神社があることで知られる馬ヶ岳。ここに山城が築かれていたことはよく知られていますが、この城の城主や寄手として戦った人々も教科書に必ず名前が載っているような「有名人」が多く、このことはとりもなおさずこの城の戦略的重要性を物語っています。

ちなみにその有名人たちは次のような方々（一部）で、みなさん名前も聞いたことがあるという方が多いのではないのでしょうか。

- ・源 為朝：弓の名手で有名
- ・緒方惟業：平家物語に登場
- ・大内・大友：戦国のライバル
- ・豊臣秀吉：九州平定に來城
- ・黒田孝高：秀吉の名参謀
- ・細川忠興：最後の城主

この他にも色々な有名人が関わったとされていますが、京都平野一帯を手にとるようになめることができるこの城のポジションが彼らを引き寄せたのでしょうか。

○豊津地区（黒岩城）

丘陵地帯の豊津地区に山城は少なく、古記録にも二つしか記されていない。洪見城（節丸）と黒岩城（光富）ですが、採石で消滅した洪見城を除くと現存するものは事実上黒岩城のみとなるようです。この城は犀川末江との境をなす黒岩山頂にあり、数個の曲輪と堀切があり、一部に石塁（ミニ石垣）が残ります。前二者に比して規模としては小さな山城ですが、実際には山城の多くはこうした小規模なもの（面積三千㎡以下）の



▲黒岩城の曲輪斜面にわずかに残る石塁

ほうが圧倒的であり、前二者のような存在はむしろ少数派です。

ではこうした小規模な山城はいったい何のためのお城だったのでしょうか。答えの一つが「村持ちの城」と呼ばれる一種の避難「城」の存在で、戦国のムラではそうした城に村人が籠り戦が去るのを待つという風がありました。これもその一つだとすると、城＝武士という常識を覆すユニークな存在となるのかもしれない。